

被災者の心も温かく



仙台に向けて手編みのマフラーとセーターを贈った積徳高等女学校ふじ同窓会119日、那覇市牧志の沖縄二越

積徳高等女学校の出身者でつくろいふじ同窓会」の有志15人が13日、1年かけて製作した手作りのマフラーやセーターなど約30着を宮城県仙台市の震災被災者に贈った。

同窓会の平良敏子さん(88)は11年10月から編み物50着以上を別の知人を介して岩手県の被災者に届けたほか、岩手県大船渡市などの被災地も直接訪れた。編み物の得意な平良さんが率先し、同窓会として1年かけて準備してきた。平良さんは「仙台の人たちが今年の冬を越えるために役立ててほしい」と願いを込めた。

ふじ同窓会 仙台へ編み物贈る

「沖繩は沖繩戦の震災、東北は地震の天災に遭った。古里が荒廃した時の気持ちは痛いほど分かる。編み物で少しでも温かくなってほしい」と語った。

同窓会の新垣さんと与儀向子